

# 東京大学エクステンションによる社会人教育

東京大学エクステンション社長

山本貴史

やまもと たかふみ



我が国における社会人の学び直しの低さは論を俟たない。OECD調査では、我が国における社会人の学び直しの低さは先進国の中で最低レベルであり、大学は良い会社に就職するための通過点という認識が強い。高度経済成長時代は、企業が終身雇用を前提に入社後の人材育成に注力することで「個」としての個人の成長と企業の成長が相乗効果を生み、共に成長をすることが実現できた。しかしながら、雇用環境の変化や企業に求められる能力の高度化によって従来型の企業内教育にも限界が見え始めている。従来は、日本企業が作り出す製品・サービス自体に競争優位が存在し、従業員は、企業内で業務を遂行するための能力を身に付ければよかったが、日本企業の競争優位は低下傾向にあり、一方で、DX/AIやゲノム編集・Maas・IoTといった、これまで企業によってあまり注力し

てこなかった技術領域への対応が迫られている。こうなると社内教育では限界がある。

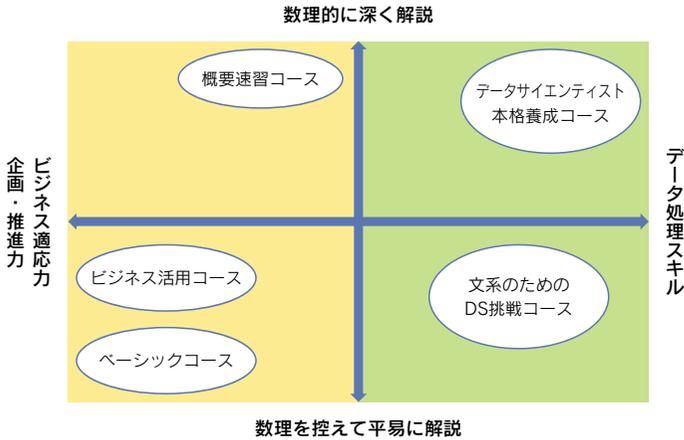
一方、海外先進諸国においては社会人の学び直しは一般化されている。米国の大学院やビジネススクールには企業での就労経験者が多いことは周知の事実であるが、北欧諸国においてもこの傾向は見られる。フィンランド等では社会保障が充実しているが故に従業員は容易に解雇される。失業者が社会保障で支えられているため企業は簡単に従業員を解雇するのである。また、従業員も企業の方針やマネジメントに納得しない場合は容易に退職する。この退職した人材が大学で学び直し、最新技術やマネジメントを習得し社会復帰をする。つまり、大学がセカンドチャレンジの人材育成の要所となっている。これらの人材の中には、大学でユニークな技術を発見し、スタートアップを起業してアントレプレナー

になる人材も存在する。

## 社会人教育のために データサイエンススクールを開講

このような背景を基に、東京大学は社会人教育を目的とした100%子会社である東京大学エクステンション(以下、東大EXTという)を2018年12月3日に設立した。第一弾として、東大データサイエンススクールを2019年4月に開校した。DX時代の到来に向け、我が国で絶対的に不足しているデータサイエンティストの育成が急務となっており、スタートしたものである。東京大学数理・情報教育研究センターで社会人向けに開発していたプログラムを基礎としてプログラム開発されたもので、東大講師陣により講義が行われる。初年度である2019年度は、241名の受講生を迎え、2年目となる20

図表 当社が提供するデータ分析・活用能力を持つ人材を育成するためのコース



20年度はコロナ禍という環境下にあってもリモート教育をいち早く実施し、前年度の倍の480名の受講生を迎えることができた。秋からは一部の講義をeラーニング化することにも成功し、受講生数は増加傾向にある。これには企業の危機感も背景にある。

### デジタル競争力で 国際的に大きく引き離される日本

IMD<sup>(注)</sup>のWorld Digital Competitiveness Ranking 2020<sup>(注)</sup>は、日本は前年23位から順位を下げ27位となっている。1位米国、2位

シンガポール、3位デンマーク等といった国々に大きく引き離され、アジアにおいても、香港5位、韓国8位、台湾11位、中国16位、マレーシア26位に次いで、日本は7番目となっている。中でも、Use of big data and analytics とAgility of companies(企業の敏捷性)では先進国63カ国中63位と最低ランクに陥っている。また、強いと思われる自動車業界においても、世界的な公認会計士事務所であるKPMGの調査では、自動運転車対応指数世界ランキングでは、日本は11位となっている。日本企業の強みである熟練工等の技能を含めた技術力やかゆい所に手が届くサービスもやがてはコンピュータによって数値化され、AIによって一般化・最適化されることも想定される。その際、日本企業のモノ作りはDXへの対応なくしては将来像を描くことは困難である。結果、東大E.X.Tは幅広い業界から受講生を迎え入れている。

2021年度は、これまでの2年間の経験と受講生からの感想・意見のフィードバックを受け、プログラムを大きく改定した。

図表にあるように本格的なデータサイエンティストを養成するコース、文系のためのデータサイエンス挑戦コース(数式をあまり使わない講義)、理系のバックグラウンドはあがあるが、自らはデータサイエンティストにはならず、そのマネジメントや外部ベンダーへの発注等を行う素養を身に付ける概要速習コース(e-learning)、ビジネスとしての活用ができる人材を育成するためのビジネス活用コー

ス、基礎となるデータサイエンス入門と情報倫理から構成されるベーシックコースというように職域や目的と合致するように5つのコースを設けた。

### 組織マネジメントを 研究するためのプログラムも実施

東大E.X.Tの社会人教育はデータサイエンススクールにはとどまらない。コロナ禍ではあったが、2020年、先端科学技術研究センターの熊谷晋一郎准教授によるインクルーシブデザインスクールも実施した。これは熊谷准教授による当事者教育を一般企業にも適用すべく開発したプログラムで、心理的安全性が高くハイパフォーマンスを発揮できる組織マネジメントを研究するためのマネジメントやリーダーシップを考えるプログラムである。多くの企業や社会人がパンデミックにより不安を抱えている中、ポストコロナのマネジメントのあり方を探るうえでは極めて重要なプログラムである。現在プログラム改定中で2021年も11月から実施予定である。

現在、東大E.X.Tでは、上記以外にも2020年度に構想し、コロナの影響で断念せざるを得なかった様々なプログラムを開発中である。気軽に最新の大学研究に触れることができ、数多くの社会人のセカンドチャレンジを応援し、企業で役立つ人材育成に繋がるプログラムの開発によって、東大E.X.Tから新たな教育ステージの場を社会に続々と提供していきたい。

(注)IMD (International Institute for Management Development) : スイスのローザンヌにあるヨーロッパ有数のビジネススクール